

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300462
法人名	有限会社 ケア・サポート島原
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	〒855-0075 長崎県島原市下折橋町3433-1 (電話) 0957-65-0381

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500円・25,500円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有()円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.7 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八尾病院・柴田長庚堂病院・島原保養院・スマイル歯科
---------	---------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島原市中心部から程近い静かな住宅地にある当ホームは、その事業所名の通り、明るくゆったりとした印象である。地域との交流も活発で、近隣とは気さくな「近所づきあい」が出来ている。建物内に入ると、リビングは車椅子での移動もスムーズに出来る程よい広さが確保されてある。また、掘り炬燵で入居者が寛げる畳のコーナーもあり、他の部屋や玄関の出入りへの目配りもしやすい間取りである。大きくとられた窓やトップライトから差し込む日差しがより施設内を明るくしている。明るさ、清潔感を更に感じさせてくれるのが、職員の丁寧で礼儀正しい対応であり、日頃の指導・努力が窺える。職員の多くが介護福祉士の資格を有しており、介護福祉士会の役員も務める代表者は、職員のスキルアップに対して情報収集、研修会参加の奨励とバックアップしている。充実した施設・環境に加え、入居者の重度化・ターミナルケアといった経験を積み重ねてこられたケアの質の向上に期待出来るホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価においての改善点について改善計画シートは作成されていないが、確実に改善された点もあり、改善に向けて検討されている。今後更なる継続に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は職員全員が、自己評価に最初から取り組み、記入してもらい、管理者が補足しまとめという方法で行った。ケアの振り返りの場として、その意義をよく理解し、スタッフ全員で共有を図り、取り組みを実践されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、家族代表・地域代表・行政代表・管理者・職員代表の参加により開催されている。ホームの活動状況・入居者の状況の報告がなされ、その中でターミナルケアについての報告(配慮してイニシャルで紹介)もなされている。その他、防災・評価に関する報告もあり、モニターとしての役割を担って頂いている。今後も活発な討議がなされるよう継続と、地域との協力・連携の場として活かしていける事が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情の受付は、苦情相談機会等として窓口を重要事項説明書に明記している。入居者に関する報告・連絡、ホームに対する要望の受付は、管理者によって家族の訪問時あるいは電話により密に行われており、家族の安心と信頼を得ている。今後は遠方におられる家族等配慮し、更に充実させるべく「便り」の発行も検討中である。又、前回評価での指摘により家族からの意見箱も設置した。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の行事・地元の祭りには参加している。中学生の体験学習の受け入れや、地域消防団との交流もある。近隣住民との交流は、農家の収穫物を頂いたり、ホームからは農作業の合間に茶菓子の差し入れと、気さくで良好な関係が築かれている。ホームの広い駐車場を、地域の行事や、近隣住民とすぐ近くの墓地へ、お墓参りをされる方の駐車に利用して頂く等、近隣への配慮も十分に、地域の理解と協力が、より深まるよう努力がなされている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は入居者の人権尊重をまず第一に掲げ、家庭的な温かみのある日々の暮らし、楽しみを見つけて頂き、生きがいのある毎日を送って頂ける支援を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、介護目標「目配り、気配り、心配り」を掲げている。朝のミーティング時には理念・目標を念頭に置き意識付けを行い、日々の支援に活かすよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域・近隣との交流は積極的に行っている。地元の祭りや行事への参加・見学は入居者に喜ばれている。中学校の体験学習も受け入れ、交流がなされている。近隣住民とは、農家の畑で収穫した野菜を頂いたり、農作業の合間の休憩時にホームで皆で作った饅頭など差し入れたりと温かな相互交流が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で取り組んでいる。例えば、監査指導等を厳格な父の視点として捉え、外部評価を母の視点として捉え、日常の細かなケアの振り返り、気付きの機会と捉え、評価のねらい・活用方法を理解している。改善計画シートは作成されていないが、改善に向けた取り組み・実践はなされており努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、家族代表・町内会長・地域包括支援センター職員・管理者・職員参加のもと、ホームの活動・入居者の状況報告、評価結果に関する報告を行い、モニターとしての役目になってもらっている。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市町村担当者との連携を図るべく、意識して日頃から、窓口・電話等での交流を欠かさないよう努めている。ホームからの報告・連絡の他、管理者が介護計画書についての質問・相談を受けたりと、協働もなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者に関する報告・連絡は、家族の訪問時に行い、日常の様子は個別のアルバムを作って見て頂いたりもしている。遠方におられたり、訪問が少ない家族へは電話等で連絡・説明を欠かさず、日常の様子は写真を送り喜ばれている。更に入居者の暮らしぶりを伝えられるよう、前回評価の指摘も踏まえ「便り」の発行を現在検討中である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の評価で指摘された改善点として、意見箱の設置を実践した。苦情の受付は、重要事項説明書のサービスに関する苦情等相談窓口として明記されている。家族との連絡・話し合い等は、家族の訪問時や電話で管理者が密に取り、意見を引き出すように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、異動があった場合は入居者への影響に最大限配慮し、一人一人の状態を考慮して知らせ、理解して頂くようにしている。家族に対しては、新任の場合、家族来訪時に挨拶を必ず漏れなくするよう指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームケア研究会は月に2～3回参加、その他に管理者が役員を務める介護福祉士の勉強会や病院主催のリハビリに関する研究会等、毎月、回数内容共に充実している。個々の職員のスキルアップとレベルアップを目指し、出来る限り全職員が参加出来るように、資格取得の為の配慮等も含めフォローがなされている。又、研修参加者は朝のミーティング時に報告したり、資料は誰でも見る事が出来るようにしているなど共有化も図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会等、勉強会の場で管理者、職員共に交流の機会が多くある。いくつかの近隣の事業所とは、風船バレー大会などの合同行事の場においても職員同士の交流が図られている。又、管理者が所属する介護福祉士会を通じてなど、職員の訪問研修の受け入れも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>必ず本人・家族に見学して頂くようにして、管理者が家庭・病院訪問も必要に応じて行っている。「家族になっていくので何でも話して欲しい」と本人に伝え、帰宅願望・過去回帰願望などの思いを受け止め、寂しさを感じる事がないように配慮しながら馴染んでいけるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活や趣味、好きな事を介しての会話から始まった関係作りが、互いに信頼しあう人間関係へと緩やかに発展していく喜びを感じる事がある。それまで話す事のあまりなかった入居者が語る戦争体験・苦勞話に、若い職員は敬意をもって真摯に耳を傾け、学ぶ場面がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人・家族の協力を得ながら、思いや意向の把握に努めている。その後は日々の関わりの中で、状態の変化とともに把握・対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人・家族の意向を取り入れた原案を管理者が作成し、それをもとに職員と話し合い作成されている。また家族に報告・同意を得られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的(3ヶ月に1回)、あるいは状態変化に伴う見直し(重度化・ターミナル時)を職員全員で実施している。3ヶ月で変化がない時も、新たな計画の立案で変化が付けられるよう検討を図る予定である。</p>		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援をはじめ入居者の外出に関する支援は、出来る限り努めている。事業所の地域に向けての対外的な多機能性の部分として、介護保険に関する疑問に答えて欲しいとの要望・依頼を受け、管理者が老人会に出向き、話をして喜ばれるといった機会もあった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援は全て事業所で対応しており、受診結果については記録し、必要に応じて家族へ電話で報告している。往診はターミナルケアの場合、対応して頂いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算をとっている為、入居時に重度化や終末期に向けた意思確認を、本人・家族と話し合い同意書をとっている。直近での看取りの事例もあり、その際は、状況に応じて見直し、話し合いをしつつ、主治医のバックアップと管理者・職員一丸となった体制でターミナルケアに取り組んだ。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と対話している際にその近くにいる第三者が聞いている時の配慮、本人の情緒が揺れ動くキーワードとなる言葉への配慮など、丁寧な言葉遣いに加え細やかに注意している。重要書類等は事務室にきちんと保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の支援に努める事を念頭に、出来る限り希望に沿い、無理強いににならないよう細やかな配慮をしながら、日々努めている。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備・配膳・下膳を手伝って頂いている。簡単な野菜の下拵えなどは坐って全員で行い、時には饅頭作りも行って、出来上がった饅頭を家族に届けたりしている。家庭菜園で出来た収穫物(入居者が自宅から持ってきたタネを育てた物など)は食卓にも度々上がり、毎月1日と15日の赤飯をはじめとする行事食は、季節感や「長寿」の由来もあって大変入居者に喜ばれている。		以前までは、重度化された入居者が多く、介助と十分な注意を払う事が必要だった為、職員は共に食事を摂る事が出来なかった。現在は介助が必要な方はそれ程ではなく、出来れば職員も共に食事を摂る事に期待したい。職員が共に食事する事で、収穫した野菜・行事食を話題にするなどの会話が広がり、五感を刺激しつつ食事を楽しむ、家庭的なより良い支援が期待出来る。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人に沿った支援が出来るよう、曜日等決めず希望時に入浴してもらっている。拒まれる方には、言葉による誘導でスムーズに気持ちよく入って頂くよう努力している。又、最低週3回は入浴してもらう事で清潔保持に心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園・カラオケ・書道・手芸など、入居者それぞれの趣味を楽しんで頂くよう支援している。高齢化・重度化に伴い変化が訪れた方にも、残存機能を最大限に生かせるよう、そろばんや脳トレーニング等、色々なアプローチも試みるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・散歩は希望に沿えるよう出来る限り支援している。ほぼ毎月遠方へのドライブも行っている。あまり外出したがいらない入居者に対しても、言葉による誘導など働きかけをあきらめず、結果的には外出を、本人が喜ばれ感謝されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠はされておらず、入居者は自由に入り出来る。安全確保の為、職員の目配りはもちろんの事、近隣住民の協力による見守りもある。防犯設備の他に、念の為出入り時にチャイム音で知らせる簡易センサーも玄関に設置している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いの夜間想定訓練を行っている。地域の地域消防団とは管理者は馴染みの関係がある事で協力を得て、年3回入居者との交流も含め自主訓練も行っている。訓練記録には入居者も参加しての訓練の様子の写真が添えられ、詳細で分かり易い。スプリンクラーの設置も決まっている。		火災に対する対策・準備は入念に行われているので、万全を期す為その他の災害への対策、例えば地震発生時のマニュアル作り等が望まれる。更に、災害に備えた災害用食料・水の備蓄、備品の確認、重要持ち出し品に関しての職員全員による確認に取り組んでいかれる事にも今後期待したい。

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が考えてたてているが、それぞれの状況に応じた支援が行われている。きざみ・とろみの形態食の他、治療食が必要な入居者の場合は、主治医に相談し、アドバイスを受けている。水分摂取の必要がある人の場合は、記録してチェックし、三食時・午前午後の間食時に十分に摂れているか配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔整理が行き届いており、リビングには掘り炬燵のコーナーや入居者の視線を意識したカレンダーの配置もあり、寛げる温かな空間である。リビングから居室、トイレへは直線で移動しやすく目配りもしやすい。採光にも配慮されており、明るい居心地のいい空間作りがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの広めのクローゼット、ベッドがあり機能的な作りである。共用空間同様に清掃・換気もよくなされ清潔感があり快適な環境への支援が窺える。病院から入所へ到る場合がほとんどであり、持込の物はあまり多くはないが、本人・家族への働きかけもしており、テレビ・お位牌を持って来られている入居者もおられる。		